

富田酒造有限会社 「日本酒タンク温度の遠隔モニタ・制御及びもろみ経過簿の作成支援による作業効率化」

■従前は、随時、情報を手書きで記載することでタンク毎のもろみ酒のデータを管理していた。本事業によって開発されたシステムでは、タンクに取り付けられた温調器からのデータをサーバー機で一元管理し、取り込んだ情報をスマートフォン等にてリアルタイムに閲覧、温度設定が遠隔操作にて可能となった。また、自動収集や入力されたデータはもろみ経過簿として出力が可能となった。



成果

- ・収集したデータをリアルタイムで監視すると共に、経過グラフにより醸造責任者の品温管理にも利用できる。
- ・自動収集や入力されたデータは作業完了時にもろみ経過簿として出力可能であり、これらを記録として保存することで過去にさかのぼり情報の確認が可能となった。
- ・作業時間が大幅に短縮された。(約120時間/月)
- ・リアルタイムにもろみの状況把握が可能となり、醸造責任者が出張等で不在にしている時でも、通常時と変わらない円滑な清酒製造業務が可能となった。

今後の展望

- ・醸造責任者の社長が、営業等対外的な取り組みを積極的に行える体制作りを進め、その結果として、売上・利益が拡大していくことを目指す。
- ・酒造りの現場においても、紙媒体であったデータや資料のデジタル化により、情報が集約・整理され、今後の酒造りの際に過去の詳細データをベースにして酒造りを始めることができ、高品質な酒を安定的に造っていくことが可能となる。またデータを継続して蓄積していくことで、さらに情報精度が上がり、その結果、より高品質な商品を提供していくことができると思われる。